

巻 末 資 料

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見
募集期間：令和7年（2025年）11月4日（火）～11月28日（金）

項目 素材に関する内容			
No	詳細項目	意見・要望等（意見書は原文ママ・個人に係る情報は削除）	回答
1	全般	整備は耐久年数のある「コンクリ」一択です。 以外は考えられません。湿気が多く、天然木はすぐぐちゃぐちゃになります。プラは安物臭いしコンクリほど持たない。部分部分曲げにくいとか特別な理由がある場合はコンクリ以外の適材適所でもいいけど、これから整備していくなら基本はコンクリです。	
2	全般	▲階段や柵、案内サイン等に採用検討のプラ擬木や合成木材について 素案の『3.3 階段・柵の整備』や『3.4 サインの整備』にて検討されている階段や柵、案内サイン等の材質としてのプラ擬木や合成木材については、経年劣化により、近年問題化しているマイクロプラスチックの発生源となる可能性が高いために、採用しないようにお願いします。 先日（11/20）の説明会で同様の質問をしたところ、「現時点では国の指針や法律等で禁止や規制されているものではないので検討および採用の候補から排除するものではない」との回答でしたが、マイクロプラスチック問題は近年話題になり始めたもので指針や法律等での規制が追いついていない部分が多いと思われます。 今回の台峯の緑地整備計画の基本方針のひとつは自然環境の保全や保護が目的であるはずです。その自然環境への悪影響が明確なマイクロプラスチック発生の可能性はできるだけ避けるべきもののひとつだと考えます。それらの点を考慮して「悪影響の可能性がある怪しきものは避ける」の観点から採用や検討を見送るようにお願いします。 なお、素案では採用した場合の費用が高額になる等の理由から採用検討に積極的ではない評価と書かれていたコンクリート擬木のほうが、マイクロプラスチックの発生源にならない観点からは優秀だと思われ、費用が高額な面は長い耐用年数からある程度は相殺され得るとも考えます。 個人的には階段・柵やサイン等の材質には天然木が最も良いと感じていますが、これまで述べてきた通りプラ擬木や合成木材を採用するよりはコンクリート擬木を採用するほうが良いと考えます。 鎌倉市は「御谷騒動」という日本初のナショナル・トラスト運動が起こった土地柄でもあり、いわば日本全国でも自然環境保全の意識が高い地域のひとつだと考えています。現時点では法的に問題無いから、という理由で採用を検討するのではなく、今回の実施設計の基本理念である『山崎・台峯緑地の自然環境を守り後世に伝える』に基づいて考慮検討していただきたいと考えます。	階段及び柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。 サインについては視認する施設のため、耐久性よりも周辺環境や既存サインとの景観の統一を重視し、天然木を採用します。
3	自然素材	*人口減少を見据え自然に還る素材で* これから人口が減る中で管理・維持を考えるのであれば、むしろ自然に還る素材で整備することが得策ではないでしょうか。撤去できずに山の中に人工物が残る未来は望ましくありません。誰でも気軽に周囲の素材で修復できる取り組みこそ、将来性のある保全方法だと考えます。自然素材が朽ちていくには理由があります。山を主体として整備した場合と、人を主体として整備した場合では、素材選びや手法が異なりますが、なるべく自然界の仕組みを尊重した整備方法をぜひご検討ください。 (伐採した竹や木は粉碎してチップにし、道づくりの材料や土の栄養として活用できます。階段の作成も可能です。さらに、水脈溝を掘り、路面に集まる水を水路へ誘導することもできます。その際、竹や丸太、勲利、炭、稲わら、落ち葉など、無機物と有機物を組み合わせることで、自然の水の流れを保ちながら道を整備することが可能です。各地で取り組まれております。)	階段及び柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。 それ以外のベンチ等の施設については、市民団体と協議の上、発生材の活用を検討します。
4	階段・柵	柵や階段はこれから修繕していくならコンクリ一択で、水はけの悪い所、雨降ると水浸しになる所はきちんと整備しないといけません。	階段及び柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。 なお、排水対策については、素掘り側溝を設置します。
5	階段・柵	柵とか階段は擬木はやめて、天然木でお願いしたいです。	階段及び柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。
6	階段・柵	②斜面に階段を造る計画が何ヵ所か見られるが、階段はやはり自然の景観を壊すので、できる限り設置しないでほしい。 ③どうしても階段を設置するならば、素材にプラスチックを用いた偽木製品ではなく、天然木を用いるべきである。 ④階段だけでなく柵などの素材もできる限り天然木を使用すべきである。	階段の設置箇所については、利用者が安全に通行できるよう、勾配が比較的急な箇所にのみ設置します。 階段及び柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。
7	柵	・柵等の設置に関して：近年、プラスチックの環境に対する悪影響が明らかになっています。将来世代へ環境を引き継ぐことを考えれば、極力自然素材の仕様を検討すべきだと考えます。	柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。
8	サイン・階段	4 標識支柱や階段はコンクリート擬木の採用を提案します樹脂製擬木は近年、風化が非常に早く短期の再設置は結局、コストがかかります	階段の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。 サインについては、視認する施設のため、耐久性よりも周辺環境や既存サインとの景観の統一を重視し、天然木を採用します。
9	予算	*天然木、コンクリート木、プラ擬木について* まずは安全性（劣化した時の修理も含め）が最優先だと考えます。そして環境保全の視点も大切だと思います。予算の関係もあるとは思われますので、出来れば予算見積もりを教えて頂けると幸いです。 この場合の予算とは初期予算と共に、劣化予想時における補修予算（現時点での見積もり）を試算していただけるとありがたいです（例えば20年を通してなど）。天然木での設置を望むところではありますが、ボランティア団体では修繕に関しては対応が不可能だと思っています。ここは市の予算に頼るところです。 令和7年1月の基本設計（案）から見ると、大幅な予算削減ではないかと感じています。ここで浮いた予算？をこちらに振り替えることなどはできないものかと思ったりします。	階段及び柵の素材については、耐久性や経済性等を考慮し、コンクリート擬木を採用します。 また、維持管理や修繕に係る費用については、事象が発生した際に必要に応じて予算要求を行うものです。

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見
募集期間：令和7年（2025年）11月4日（火）～11月28日（金）

項目	散策路・入口部に関する内容		
No	詳細項目	意見・要望等（意見書は原文ママ・個人に係る情報は削除）	回答
10	散策路	*人間の利便性より自然保護を優先すべき* ぬかるみに関して「靴が汚れるから舗装する」という理由での全面的な固めは、人間中心のエゴによるものであり、台峰における自然環境保護の観点からは不要と考えます。	ぬかるみがある散策路（ツノ坂）については、利用者が安全に通行できるよう、勾配が比較的急な箇所にのみ階段を設置します。
11	散策路	*つの坂について* つの坂の途中に水源があるために、 通年通路がぬかるんでいます。 市民団体（主に保全会）が自然木等を利用して通路を作っていますが数年たつと泥渾の中に埋もれてしまいます。 また、 ここにあるフェンスは通路の幅を狭くしており水の道となってしまう。 同時にこのフェンスの内側に水源があるので手を付けることができません。 この道は、 台地区に暮らす人にとって台峯への入り口となっていますがとても歩きにくい状態となっています。 また、 北鎌倉女子学園のグラウンドが広域避難所になっており、 有事の際、 避難所へ一番近い道となります。 以上のような理由から「つの坂」の改修をお願いしたいと存じます。 余談ですが、 先日近隣の小学校の教員から3年生が授業で「防災を探究している」その際に「井戸の大切さ」に気付き、 この地域では台峯の豊かな自然は「井戸水にいい影響があると考え」里山を保全している人に感謝したい、 実際井戸や水源を見学できないかと問い合わせを受けました。 子どもたちは、 鎌倉市のホームページに掲載されている「災害時に利用できる井戸について（令和7年5月こうしん）」までは行きつき、 学校近隣の井戸は把握しているそうです。 来年1月には子どもたちに「手動ポンプ井戸」（地主さんの協力を依頼）の体験と「つの坂の見学」と言う校外学習の機会を作りたいと思います つきましては、 つの坂改修の際には「水源」とか「水が湧き出しているところ」などの表示を付けていただけると幸いです。	一部散策路（ツノ坂）については、勾配が比較的緩やかな箇所は園路の整地を行い、勾配が比較的急な箇所にのみ階段を設置します。 また、併せて利用者の利便性、安全性を考慮し、既存フェンスの撤去及び素掘り側溝を設置します。
12	入口部	*北鎌倉女子学園側の舗装について* この道は、 学園のグラウンドに車を通じる道となっています。 地域住民の利用はまれではありますが、 整備の車にとっては大切な道路だと感じています。 また有事の際に避難所となった場合にはこの道の利用は不可欠だと思います（崩落、 亀裂がない限りですが）。 やみくもに舗装路を長くする必要はないと思いますが、 現時点での修繕舗装は大切だと感じます。 ここも予算見積もりを公開していただけると幸いです。	北鎌倉女子学園入口部については、既存道路の舗装材が流出し段差が生じているため、一部の範囲で碎石舗装を行います。
13	入口部	①素案は北鎌倉女学院側の入口道路を舗装する計画になっている。 都市緑地を残し後世に伝えていく意味合いから、 道路は未舗装のまま、できる限り自然に近い形で残すべきである。 維持管理がしやすいとの考えから舗装するのだろうかがこの方針に反対する。アスファルト舗装でなく、砂利道の形で残すべきである。	
14	入口部	▲散策路やその入口の舗装について 素案の『3.2 散策路・入口部の整備』にて『資料：入口部の表面処理比較』で検討されている舗装材についても、階段や柵等のプラ擬木や合成木材と同様に、マイクロプラスチック問題を考慮した舗装材の採用をお願いします。 前述の『資料：入口部の表面処理比較』で検討されている「土系舗装」には『樹脂等の固化材』を使うと書かれているので、その経年劣化によるマイクロプラスチック問題への悪影響が懸念されると考えます。 そもそもが自動車等の重量のある車両が通行する道や入口ではないこと（緑地管理のための車両を除く）、今後通行が想定されるのも自転車や自動二輪車であり、その車両重量は数十kg程度から最大でも百から数百kg程度であることから、説明会で説明されていたような車両通行による現状の碎石舗装での碎石流出のような事態もあり起きないと考えられます（もし発生したとしても軽微であり修復は容易なはずです）。 今回の素案では検討候補に挙がっていませんが、コンクリート舗装やインターロッキングブロック舗装等も含めて、景観を保ちつつ自然環境への悪影響が少ない舗装構成もぜひ検討をお願いします。	排水施設については、素掘り側溝を設置します。
15	排水施設	*土の中の水や空気を適切に保つ方法を ぬかるみ排水処理について* 山のぬかるむ場所は、その先にある水を送る自然の仕組みが滞ってる結果でもあります。1で提案した自然素材を主体とした方法での整備が可能か、ぜひご検討いただきたいと思います。処理を急ぐ排水整備は、山の貯水量を減らし、木々の枯死や、住宅地の道路の冠水を招きます。別の土砂崩れを発生させる可能性があります。自然素材を主体とした方法で *土の中の水や空気を適切に保ち、木々を育て水脈を作っていく、*目に見えない土中環境を意識した手入れをお願いいたします。	
16	排水施設	▲階段や散策路の排水構造について 素案の『3.3 階段・柵の整備』にて、台峯敷地内のいくつかの急傾斜の散策路で階段の整備が計画されていますが、急傾斜地ですか雨水等の排水構造には十分な配慮をお願いします。 これまで鎌倉市内やそれ以外の公園や緑地に既に整備された階段を見てきて、雨水等による表土流出で土留めの横木部分だけが残って障害物競走のハードルのようになった「階段が階段としてほとんど機能していない」状況を多く見てきました。 今回の素案に掲載された階段整備後の予想図等を見ても、そうした表土流出の対策が考慮されておらず、この予想図通りに階段整備が進めば、下手すると施工後数年で表土流出が進んで前述の「階段が階段としてほとんど機能しない」状況に陥る可能性があると考えます。 また階段以外の散策路（山道・トレイル）でも、台峯のような湿気や雨水等が多いところでは排水構造が重要ですが、これも従来のU字溝のような人工的かつ生物多様性や生息環境に悪影響のある（U字溝ではカエル等の生物が乗り越えられず嵌まり込んで逃げ出せずに死んでしまう場合があります）構造ではなく、より自然の景観に近く維持保全のメンテナンス性も良い構造がありますので、そうした構想を検討および採用をお願いします。 欧米ではそうした対策がいくつも考案されていて、山道（トレイル）の排水構造としては「Drain Dips/grade reversals」や「Rolling Grade Dips 」や「water bar」等、階段での表土流出対策として「box stairs」や「cribbed steps」、といったやりかたがあり、既に採用例もあるようです。台峯でもぜひこうした対策の検討と採用をお願いします。 ●《参考ページ》アメリカ・カリフォルニア州立公園の山道読本（トレイルハンドブック）の目次（英文PDF）Trails Handbook Content https://www.parks.ca.gov/?page_id=29674 ●《参考ページ》アメリカ・カリフォルニア州立公園の山道（トレイル）基本構造の資料（図解つき英文PDF）Chapter 11. Principles of Trail Construction https://www.parks.ca.gov/pages/1324/files/Chapter%2011%20-%20Principles%20of%20Trail%20Construction.FINAL.03.06.19.pdf ●《参考ページ》アメリカ・カリフォルニア州立公園の山道（トレイル）排水構造の資料（図解つき英文PDF）Chapter 14. Drainage Structures https://www.parks.ca.gov/pages/1324/files/Chapter%2014%20-%20Drainage%20Structures.FINAL.01.17.19.pdf ●《参考ページ》アメリカ・カリフォルニア州立公園の階段整備のための資料（図解つき英文PDF）Chapter 17. Trail Steps https://www.parks.ca.gov/pages/1324/files/Chapter%2017%20-%20Trail%20Steps.FINAL.12.27.18.pdf	階段を設置する箇所については、端部に袖壁を設置し、表土流出を抑制します。 また、排水施設については、素掘り側溝を設置します。

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見
募集期間：令和7年（2025年）11月4日（火）～11月28日（金）

項目 サインに関する内容			
No	詳細項目	意見・要望等（意見書は原文ママ・個人に係る情報は削除）	回答
17	多言語化対応	＊案内板の多言語表示について＊ 最近台や山之内に「民泊」ができています。 おそらく今後もこのような流れは続くものだと思います。 鎌倉に於て、 海外からの訪問者は英語圏だけとは限りません。 よって里山の散策に関しマナーを守りながら楽しんでいただくためにも多言語での表示をお願いしたいと思います	導入予定の二次元バーコードによる電子案内については、アジア圏からの来訪者を想定し、4か国語で表示する方針です。
18	多言語化対応・その他の施設	看板にQRコードを設置し、利用者がスマートフォンから常に多言語（日本語・英語・中国語・韓国語など）で案内を受けられる仕組みの導入を求めます。 自然景観を損なわずに、外国人観光客へ正確かつ最新の情報を提供できる有効な方法です。 QRコードには、 ・園内地図 ・危険箇所 の注意 ・立ち入り禁止エリア ・焚き火禁止 ・ゴミ持ち帰りのお願い ・最寄り駅や出口案内 ・防犯カメラ作動区域 などを表示することで、安全確保と利用マナーの向上が期待できます。 防犯カメラ・最低限の街灯・多言語対応QRコードの導入は、自然環境への負荷を最小限に抑えつつ、安全性と安心感を同時に確保できる最適な方法です。 行政としても、事件・事故・火災などのリスクを大幅に軽減できる重要な施策だと考えます。	導入予定の二次元バーコードによる電子案内については、アジア圏からの来訪者を想定し、4か国語で表示する方針です。 防犯カメラの導入については、山崎・台峯緑地を利用する方や周辺にお住まいの方へのプライバシー保護といった課題があることから、現時点では設置する予定はありません。 また、街灯については、山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計策定時点で生態系へ配慮するため、設置不要と整理しています。
19	サイン・ベンチ	迷わないよう分かりやすく案内表示・誘導サインがきちんとあればよし。欲を言えば休憩の椅子などをもう少しあちこち配置してほしい。アスレチック的な遊具、背伸ばしベンチ、腹筋・背筋ベンチ（アスレチックベンチ）があれば大人・子供の体力作りに人気が出るでしょう。	主・副入口に入口案内サイン及び園名サイン、主動線の分岐部に誘導サインを設置します。 ベンチの設置については市民団体と協議の上、発生材の活用を検討します。
20	採取禁止	かつてオダマキがハイキングコースから絶滅したようにキンランも採取禁止の警告措置をしないと同じ道をたどります、毎年採取され半分以上にまで個体が減っています	盗掘等の禁止事項については、入口案内板や二次元バーコードによる周知を行います。
21	盗掘・詳細	・維持管理方針について：特に林床には絶滅危惧種含め多様な植生が残された貴重な環境です。盗掘も目立ち、対策を講じる必要があります。この辺りの事が明記されていないのは何故でしょうか。 また、単に「草刈り」といっても、草の刈り方により希少種が絶滅する恐れもあります。従って、どの植物が良好に生育する環境を目指した維持管理なのかを明確にすべきと考えます。 草刈りや剪定伐採のタイミングや手法（刈高や剪定方法）について明確にすべきと考えます。	盗掘等の禁止事項については、入口案内板や二次元バーコードによる周知を行います。 草刈りや剪定伐採のタイミング・手法等の維持管理の詳細については、市民団体と協議の上、対応を検討します。
22	活動の周知	＊市民参加の整備活動の周知について＊ 私は台峰の竹の整備や草木の管理に関心がありますが、具体的にいつ、どこで、どのように行われているのかが不明です。他人の土地であるため、勝手に手を加えることはできず、無関心であるかのように過ごすしかできません。したがって、整備活動に参加可能な日程や場所をもっと周知していただければ、より多くの市民が積極的に関わることができると思います。	山崎・台峯緑地内で活動する市民団体については、二次元バーコードによる電子案内で団体紹介や活動日等の周知を行います。

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見
募集期間：令和7年（2025年）11月4日（火）～11月28日（金）

項目 急傾斜地対策に関する内容			
No	詳細項目	意見・要望等（意見書は原文ママ・個人に係る情報は削除）	回答
23	景観配慮	⑤道路の劣化や雨水によるのり面の崩落を防ぐ工事は必要ではあるが、都市緑地である点に鑑み、できる限り自然素材を用いるべきである。 ⑥落石防護対策工事に関しては、ロープ式の斜面防護工法ではなく、網を全体にかける工法を採用すべきである。 できるだけ見栄えをよくするようこころがけていただきたい。	入口部の舗装や急傾斜地対策については、利用者及び近隣への安全性を考慮し、砕石による舗装や落石防止網を設置します。 また、落石防止網はワイヤーの色をダークブラウンに塗装する等、景観に配慮します。

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見
募集期間：令和7年（2025年）11月4日（火）～11月28日（金）

項目 維持管理方針に関する内容			
No	詳細項目	意見・要望等（意見書は原文ママ・個人に係る情報は削除）	回答
24	伐採竹の活用	北鎌倉の竹林について、過密や管理のご負担があると伺いました。 私は鎌倉で篠笛・龍笛の制作活動をしており、もし伐採された竹がある場合、文化的な活用として笛の素材にさせていただければと思っております。 地元の竹を使って楽器を作ることは、鎌倉の自然と文化をつなぐ象徴になりますし、伐採竹の活用は整備の一助にもなると考えております。 可能であれば、市民が竹材を受け取りやすい仕組みが整うと嬉しいです。 台峰の自然が、地域に開かれた文化と学びの場になることを願っています。	発生材の活用については、市民団体と協議の上、対応を検討します。
25	市民団体	市民団体を育てて、市民団体が定期的にメンテナンスできるように来ていただくと良いかと思います！	維持管理への協力については、市民団体と協議の上、対応を検討します。
26	外来種の駆除	▲維持管理方針の項目追加について 素案の『3.7 維持管理方針の検討』では『維持管理の項目例』としてさまざまな項目が挙げられていますが、そのうち『【植生】』について「侵略性の高い外来生物の駆除等」を追加すべきと考えます。 台峯は現在では貴重な日本在来動植物が多く生息する里山自然環境です。それを維持保全していくためには、環境省が指定する特定外来生物をはじめとした「侵略性の高い外来生物」の駆除は必須のはずです。わたしが台峯で気になっているのは、セイタカアワダチソウやコセンダングサ等の外来植物ですが、他にも侵略性の高い外来生物が居るならば駆除することで台峯がより「後世に伝えるべき自然環境」として価値が高まると考えます。	外来植物の駆除については、市民団体と協議の上、対応を検討します。
27	費用・外来種の駆除	3. 今後は費用の目安があった方が分かりやすいと思います。工事や設置物の費用は、何を選択するかの判断材料の一つです。また、生態系の調査や外来植物の駆除も、徹底的におこなうと相応の時間と費用が掛かります。具体的なプレーヤーと費用の目安があった方が、どの程度のレベルでおこなうのか、或いはおこなわないのかの議論がしやすいと思います。	設置する施設については、経済性を考慮した上で選定を進めています。 生態系の調査や外来植物の駆除については、市民団体と協議の上、対応を検討します。
28	連絡会	*維持管理方針について* すでに地域の団体との話し合いが始まっているとのことですが、 今後情報を公開していただきたいと思います。可能であれば参加人数を増やすことも（現在は1団体1名）、 ご検討いただけると幸いです。	
29	連絡会	5連絡会の参加人数を各2名までとし、情報共有を迅速化したい、またはその場で議事録を発行願います	
30	連絡会	▲（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会への参加について 素案の『3.7 維持管理方針の検討』にて、『（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会 準備会』を既に2回開催して現在台峯の緑地整備に参加する里山保全団体を招いてヒアリング等を行なっているとの説明でした。 現時点では実際に台峯の緑地整備に関わる団体や人に限定するのは仕方ないかもしれませんが、どこかの時点からは保全活動に参加していないが台峯を利用・通行している近隣住民等、台峯に関わるさまざまな人を招いての連絡会としてある程度の門徒の拡大は必要なのかと考えます。例えば、昨年の基本設計段階で話題に挙げった北鎌倉女子学園も台峯敷地内にグラウンドを持つなど「台峯に関わりのある団体」であると考えます。 より良い台峯の自然環境を維持保全していくために、関わりのあるより多くの人たちから広く意見を聴くことは大切だと考えますので、よろしくご検討をお願いします。	（仮称）山崎・台峯緑地保全活動連絡会の設立に向けて対応を検討します。
31	通行規制	峰の道路については非常時以外はバイクの通行を制限していただきたい（オフロードバイクの練習走行ではたちまち樹木の根が破損し立ち枯れとなるのが常です	通行規制については、交通管理者及び道路管理者と協議の上、対応を検討します。
32	通行規制	▲自転車や自動二輪車等の通行について 2025年11月現在、山崎・台峯緑地の各出入口に設置された「入口案内サイン」にて乗車したままの通行（乗り入れ）を禁止する旨が記載されています。そして素案の『3.7 維持管理方針の検討』にて、『供用開始前に、自転車）二輪車の通行条件を整理します。』とあります。 しかしながら先日（11/20）の説明会にてみどり公園課の皆さんからの回答にもあったように、今回の実施設計対象範囲およびそれ以外の山崎・台峯緑地敷地内の散策路のうちいくつかのルート（動線）は鎌倉市の管理する市道（公道）であり、それらに関しては自転車や自動二輪車の通行を法的に完全には禁止できないものです。 山崎・台峯緑地敷地内のいくつかのルート（道）は、私自身を含めて、地元近隣在住の皆さんからすると山崎・台峯緑地が緑地として整備される以前から生活道路のひとつとして利用してきた道です。入口案内サインに「自転車や自動二輪車の乗り入れ禁止」と記載される以前は、伝聞ではありますが新聞配達や郵便配達等の人たちも利用していたと聞いています。 私自身も自転車で台峯を通行していた者ですが、同時に徒歩で通行している者でもあります。その両方の立場や観点から、台峯敷地内の自転車や自動二輪車の通行をこのまま全面禁止することには反対の立場ですが、今後自転車や自動二輪車の通行禁止が解除されたとしても全面解除ではなく、車種の限定（一定排気量以上の自動二輪車の通行制限）や、徐行速度での通行など、何らかの規制や制限は必要とも考えています。	

山崎・台峯緑地（都市緑地）実施設計（素案）に関する意見
募集期間：令和7年（2025年）11月4日（火）～11月28日（金）

項目	その他の施設・計画等に関する内容		
No	詳細項目	意見・要望等（意見書は原文ママ・個人に係る情報は削除）	回答
33	防犯カメラ・街灯	最近では、北鎌倉女子入口近くに民泊があり、外国人のハイキング客も増えています。 今後さらに来訪者が増えることが予想されます。 公園化が進むと、キャンプのように焚き火をしたり、園内で寝泊まりする利用が増える可能性も否定できません。 実際に、ゴミ集積所には明らかに住民のものではないペットボトルや、スーパーの袋に入ったカップ類などの残骸が捨てられており、不法投棄がすでに始まっていると感じられます。 今後さらに人の出入りが増えることで、夜間の不審者・迷惑行為・不法投棄・焚き火による火災リスク、さらに女性や観光客の被害など、犯罪や事故が発生しやすくなる ことが強く懸念されます。 犯罪やトラブルの温床とならないよう、抑止力として“防犯カメラの設置”と“最低限の街灯の整備”を強く求めます。 これらの設備は自然環境への負荷を抑えつつ、安全性と安心感を同時に確保できる最適な方法です。 行政としても、 事件・事故・火災などのリスクを大幅に軽減できる重要な施策だと考えます。	防犯カメラの導入については、山崎・台峯緑地を利用する方や周辺にお住まいの方へのプライバシー保護といった課題があることから、現時点では設置する予定はありません。 また、街灯については、山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計策定時点で生態系へ配慮するため、設置不要と整理しています。
34	ドローン	景観を損なう新規の開発道路については、強く反対します。 北鎌倉周辺は歴史的景観が非常に価値の高い地域であり、道路建設によって竹林・植生・生態系が分断されると、自然は二度と元には戻りません。 また、現代では荷物搬送や緊急確認などにドローンが広く活用されており、車両が往来する新たな道路を作らなくても、十分に代替が可能です。 道路建設は景観破壊だけでなく、 ・騒音 ・光害 ・不審者の車両侵入 ・夜間の滞留や迷惑行為 など、治安悪化にもつながる恐れがあります。 自然を守りながら安全対策を進めるためにも、新規の開発道路は設置せず、現行の歩行者ルートの整備と、必要箇所への防犯カメラ・最低限の街灯・多言語QRコードの導入で十分対応可能です。 ドローンの導入により、緊急時の確認・巡回・案内システムを強化することもでき、自然環境と安全性を両立できます。 以上より、景観を損なう開発道路の新設には反対し、時代に合ったドローン活用やスマート案内システムによる対応を強く求めます。	北鎌倉女子学園入口部については、既存道路の舗装材が流出し段差が生じているため、一部の範囲で碎石舗装を行うものです。 ドローン活用については、他公園での利用実績等を踏まえ、対応を検討してまいります。
35	星岡窯旧跡	円覚寺、六国山の展望が素晴らしくよく保存されることを願います。 魯山人の星岡窯旧跡が放置状態であるなら、だらしがないイメージです。所有者がちゃんとするか、無理なら市へ寄付されて整備されるといいのではないのでしょうか。このだらしがないイメージが鎌倉のイメージです。所有者がいい加減なら市もいい加減、拳句のはてに朽ち果てるだけ、という利活用ゼロの最悪のパターンです。	星岡窯跡は山崎・台峯緑地の区域外にある民有地であり、また、都市計画公園の区域外であることから、用地取得等の予定はありません。
36	小公園、避難地	小公園＆災害時避難地にする。 収容する人員を設定し、それに合わせた生活物資を備蓄して置く。	隣接する北鎌倉女子学園グラウンドは広域避難場所に指定されています。（山崎・台峯緑地の区域外）
37	基本理念	＊保全管理ゾーニング（案）について＊ 台峯は「自主保育や近隣の幼稚園・保育園の児童」「学童の子どもたち」「NP0法人かまくら冒険あそび場やまもり」「近隣の山崎小や小坂小」など、子どもたちにとって貴重な体験の場となっています。 （ちなみに保全会では各団体や学校・コミュニティスクールとの連携を大切にし、次世代への継承を願い、継続的な関係を築いています）。 また、台峯を散策される方々にとっては憩いの場となっています。 30年前の「荒廃し歩くのも怖さを感じた台峯」には戻ってほしくないと思っています。 地域住民やボランティア団体の協力を得ながら＊「基本理念」の実現を目指し「基本方針」に沿った活動を望みます＊。	貴重なご意見として承ります。
38	基本理念	▲まず総論として 「山崎・台峯緑地（以下、台峯と略記）」はいわゆる「里山」の自然環境です。里山は「人による手入れが継続することでその環境が維持保全される自然」ですから、今回の緑地整備を経て緑地や公園として供用が開始されたとしても、その維持保全には大なり小なり継続的な維持整備は必要になります。維持整備のためのコスト（頻度や負担）を減らすことはある程度までは可能かもしれませんが、完全に無くす（ゼロにする）ことはできません。 今後台峯を維持管理する主体の鎌倉市としては、その維持保全コストをできることなら経済的（安価）にして持続可能性を高めるという観点に立つのはある意味では当然です。しかしながら、経済的観点ばかりではなく、豊かな生物多様性の維持保全など『山崎・台峯緑地の自然環境を守り後世に伝える』という基本理念を大前提にした事業として進めていただきたいと思います。	
39	コンセプト・役割	4. 鎌倉の緑地・公園それぞれのコンセプトや役割を決めて、市民に活用してもらった方が良いでしょう。山崎・台峯緑地は手つかずの自然ではありません。『市民と里山の共生モデル』といった感じでしょうか。鎌倉の昔の里山文化を残し体験することをコンセプトにしてもらいたいです。散在ガ池、源氏山などの観光客も呼べる緑地・公園と、台峰、常盤山などの里山、中央公園や海浜公園のようなイベントが出来る広場など、それぞれ違った性格の緑地・公園があって、市民がそれぞれの魅力を楽しめるようにしていただきたいと思います。	
40	ツノ坂	つの坂の整備はフェンスの中にかつて存在していた台の谷戸に流れていた川の源流（埋没している）を復活させることで台峰の価値を上げることに寄与すると思います	
41	委託	1. 今回のコンサル会社との委託契約は令和7年7月に改札されており、費用4,204万円とのことです。当初の市の案はもっと大規模な工事でしたが、安全性以外はできるだけ手を入れない方向に転換しています。今後は、市と市民の打合せで充分進められるレベルだと思いますので、金額を見直せるのではないのでしょうか。 2. また、当初計画よりも工事の規模は縮小されるのですから、工期も短縮できると思います。現状完成時期は4年後の2029年となっていますが、早めた方が人件費や委託費のコスト削減に繋がると思います。 5. 先日の説明会では、コンサル会社を使う理由は、大きな緑地の整備は台峰が最後だが市にはノウハウがないのでコンサルを使わざるを得ないという主旨のご説明でした。しかし、台峰の供用開始は4年先となっており、公園・緑地の維持管理や保全はその後もずっと継続する課題です。短期的にコンサル会社を使うよりも、鎌倉の緑地・公園やハイキングコースのあり方をトータルで考え整備する技術系の専門職員がいらした方が、継続性もありノウハウも蓄積できると思います。当初、市民の感覚と乖離した案が出て来ましたが、東京のコンサル会社が東京の都市公園をイメージして企画書を作るからではないかと感じました。それは恐らく市民の多くが望んでいないことです。もっと市が主体となって、鎌倉の環境をより多くの市民が活用できるように整備していただきたいと思います。	契約金額については、入札時に設定した仕様等に変更は生じていないため、現時点で契約金額を変更する予定はありません。 工期の短縮については、予算の平準化を考慮し、都市計画事業の認可期間である令和10年度末までに施設整備及び用地取得を進めます。 また、公園設計に係るコンサルタント業務については、設計に係る測量調査や構造計算等の専門的な技術及び資格等が必要になるため、設計する必要が生じた際にコンサルタント業務を専門とする会社に都度委託する手法は適正であると考えます。 今後も山崎・台峯緑地に関する情報は連絡会等で情報共有し、市民の方への周知・合意形成に努めます。